

報 道 資 料

平成24年11月7日
保健予防課感染症係 担当：西元・根津
内線 3132・3142 ダイヤルイン 0742-27-8612

医療従事者の結核発病について

葛城市内で診療所を開設する医師が肺結核と診断され、咳等の症状が出現した平成24年6月以降、約1000人を診察していたことが11月6日までの葛城保健所の調査で判明しました。

県では、診療所受診者等への感染の有無を確認するため、感染症法に基づき、接触者の健康診断を実施するとともに、保健予防課、葛城保健所では本日から相談窓口を設置し、健康相談に対応します。

1. 患 者

年 齢：60歳代 住 所：葛城市 職 業：医師
業務内容：患者が開設する葛城市内の診療所での診察（1日約70人）

2. 経 緯

平成24年6月頃 咳、倦怠感
7月24日 自診療所で胸部X線検査実施し異常認めず（10月16日の感染症診査協議会での読影で異常がないことを確認）
8月初旬 咳、痰、発熱（37.2℃程度）あり、抗生物質服用し咳は軽減したが痰と嘔声持続
10月6日 自診療所で喀痰検査の結果、ガフキー6号*1
医療機関受診し結核専門医療機関を紹介される
10月9日 結核専門医療機関受診し入院

*1 ガフキー号数：喀痰の塗抹標本を顕微鏡で見て菌数をわかりやすく11段階に分けた菌数の表示方法。見られない場合を0、見えた場合少ない方から多い方に1～10までの数を当てたもの。

3. 現在までの対応

10月9日 葛城保健所が結核専門医療機関から結核発生届を受理。
10月10日 保健所が患者等からの聞き取り調査を実施。
10月29日 患者が葛城市の保健事業に従事し、本年8月1日以降に接触した乳児59名の情報提供を受け、リストを作成。
10月30日 診療所の協力を得て、本年8月1日以降に医師が診察した患者リストを作成した結果、736人を診察していたことが判明。
11月6日 健診の方針及び計画（健診場所、対象者数等）を決定。

※ 10月17日～患者の家族および診療所に勤務する職員の健康診断を開始。
＜現在までの健診結果＞

	健診対象者	健診実施者	要治療者	LTBI*2	経過観察	異常なし
患者家族	8人	8人	0人	1人	2人	5人
勤務職員	8人	8人	0人	0人	0人	8人

*2 LTBI：潜在性結核感染症。発病はしていないが胸部X検査、菌検査所見に異常がなくても結核菌に感染していること自体が潜在的な疾患であるという考え方で、内服治療の対象となる。

4. 今後の対応

1) 接触者に対する健康診断の実施

感染症法に基づく接触者健康診断の手引き（ガイドライン）に基づき、結核を感染させる可能性のある期間を8月1日から10月5日までとし、この期間に患者と同じ空間にいた人のうち、感染を受けた確率の高い接触者、および感染を受けた場合に発病しやすい者から優先的に健康診断を実施する。

(1) 対象者

- ①患者の家族：8人。（※上記3．＜現在までの健診結果＞のとおり）
- ②診療所に勤務する職員：8人。（※上記3．＜現在までの健診結果＞のとおり）
- ③診療所受診者のうち、感染を受けた場合に発病しやすい者：258人。
- ④市保健事業で患者が従事した日の受診児等
 - 10か月健診（8月3日）：26人
 - BCG予防接種（8月23日）：33人
- ⑤友人：3人

(2) 接触者健康診断の通知《第1回》

接触者健康診断の対象者に対しては、11月7日付けで感染症法に基づき健康診断勧告書を送付しています。

（※勧告書を受け取った方は積極的に健康診断を受けていただくようお願いします。）

2) 医療機関に対する職員の健康管理と院内感染対策の徹底、結核に関する啓発および注意喚起

3) 健康相談窓口の設置

①奈良県保健予防課

午前8時30分～午後5時00分（平日のみ） 電話 0742-27-8612

②奈良県葛城保健所健康増進課感染症係

午前8時30分～午後5時00分（平日のみ） 電話 0745-22-1701（代）

結核は、今でも年間2万3千人程度の患者が新たに発生しています。奈良県では、昨年、新しく結核を発病した患者の数は261人で前年よりも増加し、結核罹患率は18.7と全国平均(17.7)よりも高くなっています。結核の特徴は次のとおりです。

原因（病原体）：結核菌

感染経路：感染源となる患者が咳やくしゃみとともに排出する飛沫(核)を吸い込むことによる空気感染。

感染と発病：・感染後2～3か月程度で、ツベルクリン反応やIGRA*³で陽転。

・感染しても生涯で発病するのは2割程度で、多くは感染後2年以内に発病。（BCG未接種の乳幼児や免疫が低下している者等は注意が必要。）

※感染したからといって必ず発病するわけではなく、多くの場合は、免疫により結核菌の活動は抑えられる。

発病した場合の症状：初期症状は、咳、痰、微熱など、風邪と見分けが付きにくい。進行すると、全身倦怠感、胸痛、食欲低下、血痰といった症状が現れる。

治療方法：3～4種類の薬を6～9か月服用することで完全に治すことができる。結核菌の耐性化を防ぐためにも確実な内服治療が重要である。

*3 I G R A:結核感染の有無を検査する方法。結核菌に感染したときに血中に増えるインターフェロンガンマを測ることによって、BCG接種の影響を受けずに結核感染の診断を行うことができる。

【備考】患者のプライバシー保護については、特段のご配慮をお願いします。